

第49回海洋開発シンポジウム(2024)

特別セッションS1 (13:15~15:15)

「海洋開発分野における計測・観測技術」

オーガナイザー 加藤 茂 (豊橋技術科学大学)

発表者・パネラー 鈴木 樹 (パシフィックコンサルタンツ)

水野 辰哉 (五洋建設)

照屋 市朗 (天野産業)

秋山 吉寛 (国土技術政策総合研究所)

三上 丈太郎・池谷 毅 (東京海洋大学)

津田 宗男 (沿岸技術研究センター) (敬称略)

本セッションの進め方

時間:13:15~15:15(120分)

1. 特別セッションの説明, 昨年度の振り返り
2. 各発表者からの発表(6件, 発表のみ) (60分)

※発表に対する質疑応答は「全体討議」の中で行います。

(休憩 10分)

3. 全体討論 (40分)

- ・ パネラーからのコメント
- ・ 会場・オンライン聴講者からの質問と回答

(1) 新たな計測・観測への挑戦の課題

(2) 今後の展望や期待, 将来性

4. まとめ

昨年度の振り返り

- 討論の内容
 - 現在の計測・観測技術に関するメリット／デメリット
 - 今後の計測・観測技術の方向性や期待
- パネラー（敬称略）
 - 中嶋 道雄（パシフィックコンサルタンツ）
 - 鳥居 大和（岐阜工業高等専門学校専攻科）
 - 岡田 輝久（電力中央研究所）
 - 柴山 知也（早稲田大学）
 - 松長 悠太（五洋建設）

討論のまとめ

- それぞれに計測技術には得意・不得意な部分がある。各技術の得意な部分を最大限に活かすとともに、得意な部分を組み合わせて全体としてのデータを作り上げていくことが必要である。
- 取得したデータを公開し、それを多くの技術者、研究者が利用することで、新たなデータ取得への期待、そのための計測・観測技術の発展に繋がるのであろう。
- 最新の技術を積極的に利用すること、利用者を増やすことが、機器の価格面や技術面の改善の好循環に繋がる。またそれが、海岸・海洋工学分野への参加者の増加や分野の発展にも繋がる。
- 計測・観測技術の発展により、作業の効率化やコストの軽減、安全性の向上など、業務・研究環境の改善にも繋がることを期待する。